接続詞：従属接続詞

0 文法的背景
1 基本（理由の従属接続詞because）
2 従属接続詞節の非制限用法
3 従属接続詞と等位接続詞の違い
4 代名詞と従属接続詞節
5 because以外の理由の従属接続詞
6 時の従属接続詞
7 条件の従属接続詞
8 譲歩の従属接続詞

0 文法的背景

接続詞（conjunction）とは、２つの文を結(むす)びつける語である。

英語には**等位(とうい)接続詞**と**従属(じゅうぞく)接続詞**の２種類がある。

従属接続詞（subordinate conjunction）は、**従属節**を導(みちび)き、**複文(ふくぶん)**内において従属節を主節に結びつける働きをする。

> **複文**とは、**ある文の中にまた別のもう一つの文が入っている**ようなもの、つまり主語＋述語から成る文の構成部分の中にさらにまた別の主語＋述語ペアが「入れ子」のようにもう一つ入りこんでいるものを言う。
>
> 例えば「三重は雨の多い県だ。」という複文の場合、述語の一部である名詞「県」を修飾する部分「雨の多い…」の中においても主語＋述語の構造が見受けられる（「雨が多いです。」）。あるいは「彼女が優しいのは有名な話だ。」という複文の場合、この文の主語となっている「彼女が優しいのは…」の部分の中にも主語＋述語の構造がある（「彼女は優しいです。」）。
>
> **節**（clause）とは、文の中にはめこまれた文のことを言う。
>
> **主節**とは、複文の中で従属節を従えている、それだけで独立した文になれる方の節のことである。「三重は雨の多い県だ」という文においては、「三重は…県だ」の部分が主節になる。
>
> **従属節**とは、複文の中で、主節の中**に入り込んでいる文の**ことである。「三重は雨の多い県だ」という文においては、「雨の多い…」の部分が従属節になり、主節「三重は…県だ」の中に目的語として入り込んでいる[1]。

例えば「I like this book.（私はこの本が好きだ。）」と「It is interesting.（それは面白い。）」の二文があったとする。Ⓐ後者の「It is interesting.」の文頭に従属接続詞becauseを加えると（「because it is interesting（それは面白いので…）」）、この文は従属節へと変化する。さらにⒷこの従属節を「I like this book.」の後ろに付け加えると、「I like this book.」が主節となり、その後ろの従属節「because it is interesting」と結びついて複文を形成する（「[主節]I like this book [従属節]**because** it is interesting.（[従属節]その本は面白いので、[主節]私はその本が好きだ。）」）

従属接続詞は、文と文を結びつけることに加えて、①**名詞節**を形成して主節の目的語や主語になったり（例：「I know [O]that he likes math.」）、あるいは②**副詞節**を形成して主節の動詞を修飾することができる（例：「I [V]like this book [M]because it is interesting.」）。

---

[1]なお、複文ではなく**重文**の中に入り込んでいる文は「等位節」と言う。重文「He came, and she left.（彼が来て、そして彼女が去った。）」の中に入っている、等位接続詞andに導かれる節「and she left」は等位節になる。

①名詞節を形成する従属接続詞

例えば「私は、[O]彼が昨日６時に帰宅したことを、知っている」という複文の場合、「私は～を知っている」という主述の文の、目的語（「～を」）の部分に、「彼が…帰宅した」というもう一つ別の主述ペアが入っている：

[主節] [S]I [V]know [従属節] [O]**that** he came home at six o'clock yesterday.

[主節] [S]私は、[V]知っている、[従属節] [O]彼が昨日６時に帰宅した**ことを**。

上の英文において、従属接続詞thatは従属節「**that** he came home at six o'clock yesterday（彼が昨日６時に帰宅した**ことを**…）」を導き、これはこの複文の主節「I know ～（私は～を知っている）」中で目的語の機能を果たしている（目的語になることができる品詞＝名詞、ゆえに**名詞**節）。つまり、主節の目的語の部分に、さらに主語＋述語ペアを含んだ別の節（文）が丸々入り込んでいる形になっている。

②副詞節を形成する従属接続詞

「[M]彼が帰宅した時に、私はテレビを[V]見ていた」という複文の場合、「私は…見ていた」という主述の文の動詞（「見ていた」）が表す行為が**いつ行われていたかに関する修飾**を、「彼が帰宅した時に…」の部分が行なっている。この修飾部の中において、もう一つ別の主語＋述語ペアが確認できる：

修飾

[従属節] **When** he came home, [主節] I [V]was watching TV.

[従属節] 彼が帰宅した**時に**、私はテレビを[V]見ていた。

上の英文において、従属接続詞whenは従属節「**when** he came home（私の父が帰宅した**時に**…）」を導き、これをその後に続く主節「I was watching TV.（私はテレビを見ていた）」に繋げ、そしてその際に主節の動詞句「was watching」を修飾している（その動作をいつ行っていたかに関する修飾をしている…動詞を修飾する品詞＝副詞、ゆえに**副詞**節）。

この複文においてメインになるのは主節「I was watching TV.」の方であり、これは**独立しても一つの文として成立しうる**。これに対し従属節の方はあくまで主節の動詞を修飾する付加語でしかなく、いわば主人であるところの主節に仕える従者、刺身の妻、単なる「飾り」であり、これ自体は**主節から切り離したら独立した文としては成立しえない**（「私の父が帰宅した時…（何したの？）」と尻切れとんぼの非文になる）。

以下、このプリントでは後者の「**副詞節**として主節の動詞を修飾」するタイプの従属接続詞を解説する（名詞節を形成する従属接続詞thatに関しては別プリント参照）。

1 基本（理由の従属接続詞because）

❖ 制限用法（文後半でカンマ「，」無しで使用する場合）：

〈主語1〉〈動詞1〉because（ビコーズ）〈主語2〉〈動詞2〉.
〈主語2〉が〈動詞2〉するので、〈主語1〉が〈動詞1〉する（通常、because節から先に訳す）。

Tom succeeded **because** he did his very best in everything. ☞do 〈人〉's best=全力を尽くす。	（彼が）何事にせよ全力を尽くした**から**、トムは成功しました。☞because節が後半でも先に訳す。

❖ 否定文における別訳：

〈主語1〉don't〈動詞1〉because（ビコーズ）〈主語2〉〈動詞2〉.
〈主語2〉が〈動詞2〉するからと言って、〈主語1〉が〈動詞1〉する、というわけではない。

You should**n't** despise a man **just because** he's poor. ☞just=ただ（≒only）。	貧しい**からといって**人を軽蔑（けいべつ）してはならぬ（×彼は貧乏なので軽蔑すべきではない）。

従属接続詞節は、文の**後半**（＝主節の後）、**前半**（＝主節の前）、いずれの位置でも用いることができる。従属接続詞節が文の前半にくる場合、その後ろには**必ずカンマを入れる**（例：「Because he is rich, he is happy.」）。文の後半に来る場合は、基本はカンマは打たずにそのまま書く（例：「He is happy because he is rich.」）。

because節の場合、基本はⒶ文の後半で使用し、Ⓑカンマをその前では打たずに用いる。訳す際はその後ろにある**because節を先に訳す**。例えば「He is happy **because** he is rich.」なら、「彼は金持ち**なので**、（彼は）幸せだ。」と訳し、「彼は幸せだ、**なぜなら**彼は金持ちだからだ。」とは訳さない。

because節などの副詞節を形成する従属接続詞節は、必ず他の文とつなげて用い、単独では用いない（○「He is happy **because** he is rich.」；○「**Because** he is rich, he is happy.」；×「He is happy. **Because** he is rich.」）。

Why was Tom absent? —**Because** he was busy.	なぜトムは欠席したのですか？ —なぜなら彼は忙（いそが）しかったからです。

ただし、why疑問文など理由を尋ねる疑問文に対する答えにおいては例外的にbecause節を単独で用いることができる（○「**Why** was Tom absent? —**Because** he was busy.」）。

❖ 制限用法（文前半で使用する場合）：

Because 〈主語$_2$〉〈動詞$_2$〉, 〈主語$_1$〉〈動詞$_1$〉.
〈主語$_2$〉が〈動詞$_2$〉するからこそ、〈主語$_1$〉が〈動詞$_1$〉するのだ。

Because he did his very best in everything, Tom succeeded.	（彼が）何事にせよ全力を尽くした**からこそ**、トムは成功したのだ。

❖ 非制限用法（文後半でカンマ有りで使用する場合）：

〈主語$_1$〉〈動詞$_1$〉, because（ビコーズ）〈主語$_2$〉〈動詞$_2$〉.
〈主語$_1$〉が〈動詞$_1$〉する、なぜなら〈主語$_2$〉が〈動詞$_2$〉するからだ（文をカンマの位置で切って訳す）。

I can't go**, because** I'm busy.	私は行けません、と言うのも私は忙（いそが）しい**から**です。☞カンマ（「, 」）の位置で文を切って訳す。

because節を文の前半で使用したり、あるいは文の後半でカンマを打った後に使用しても誤りではないが、その際は意味合いが変化するので注意しなければならない：

Ⓐ副詞節を形成する従属接続詞節を**文の前半**で使用すると、それを**強調**する形になる（because節の場合、理由が強調される形になる）。

Ⓑ副詞節を形成する従属接続詞節を**文の後半**で使用する場合、その前で**カンマ**を打たないと**制限用法**になり（基本）、カンマを打つと**非制限用法**になる（特殊な用法、後述）。

2 従属接続詞節の非制限用法

①Tom didn't leave the party early because Mary was there.	①Ⓐ制限用法：トムは（彼が好きな）メアリがパーティにいたので、早くパーティを**去らなかった**。
	①Ⓑ制限用法：トムは（彼が嫌う）メアリがそこにいたから（それが理由で）、パーティーを早く去った**わけではない**（ただ体調が悪いから去っただけだ）。
②Tom left the party early not because Mary was there (but because he was sick).	②トムは（彼が嫌う）メアリがそこにいたから（それが理由で）、パーティーを早く去った**わけではない**（ただ体調が悪いから去っただけだ）。
③Tom didn't leave the party early, because Mary was there.	③非制限用法：トムはパーティーを早く去らなかった。なぜなら（彼が好きな）メアリがそこにいたからだ。

because節などの従属節を後半で使用する場合、その前でカンマを打たないと**制限用法**になり、カンマを打たないと**非制限用法**になる。

制限用法（カンマ無し）のbecause節を、非制限用法（カンマ有り）であるかのように「…、なぜなら～だからだ」とカンマの位置で切って訳すのは、厳密には誤り（あやま）になる。制限用法のbecause節はあくまで副詞節なので、和訳の際は修飾される動詞の前にその内容を全て乗（の）せる。例えば上の①の例文であれば、「○メアリがパーティにいたので、トムは早くパーティを去らなかった。」であり、「×トムは早くパーティを去らなかった。なぜならメアリがパーティにいたからだ。」とはしない。

さらに、上の例文①は、文脈や読む際のアクセントを置く位置によって、以下の正反対の意味のいずれも表しうる：

Ⓐトムは（彼の好きな）メアリがいたので、パーティーを早く去ら**なかった**のだ。
☞文の主節の動詞を否定。

Ⓑトムは（彼の嫌いな）メアリがいたからパーティーを早く去った**わけではない**。
☞理由の従属節のみを否定。

通常はⒶの意味でとられることが多いが、こうした曖昧（あいまい）さを完全に排除してⒷの意味に特定したい場合には、否定のnotをbecause節の直前に置く（上の例文②）。

3 従属接続詞と等位接続詞の違い

❖ because（ビコーズ）：〈主語〉〈動詞〉：〈主語〉が〈動詞〉する**ので**…	
◇ so（ソウ）〈主語〉〈動詞〉：**だから**〈主語〉が〈動詞〉をする。	
He passed **because** he studied hard.	彼は懸命（けんめい）に勉強した**ので**、彼は合格した。
He studied hard, **so** he passed.	彼は懸命に勉強した、**だから**彼は合格した。

順接の等位接続詞soは、理由の従属接続詞becauseによる書き換えができる。等位接続詞は後ろにくる文と共に**等位節**を形成する。

becauseの意味を「**なので**」で丸暗記していると、「He likes English because he is good at it.」のような文を「彼は英語が好き**なので**、彼は英語が得意だ」と**誤訳**してしまいがちなので注意（正しくは「彼は英語が得意**なので**、英語が好きだ」）。becauseは、前の文を受けての「**なので**」ではなく、あくまで**その後ろにくる内容を受けて**の「…なので」を意味する。

○ **So** he passed.	だから彼は合格した。
× **Because** he studied hard.	彼は懸命（けんめい）に勉強したので…（尻切（とんぼ）れ蜻）。

soなどが形成する等位節は独立した文としても成立しうるが、becauseなどが形成する従属節は独立した文になることはできない（例外…前述のWhy疑問文に対するBecause書き出しの解答）。

× **So** he passed, he studied hard.	**だから**彼は合格した、彼は懸命に勉強した（二文が繋がっていない）。
○ **Because** he studied hard, he passed.	彼は懸命に勉強した**ので**、彼は合格した。

従属節は前置できるが、等位節はそのまま前置することはできない。

4 代名詞と従属接続詞節

通常、代名詞は前出の固有名詞を受けるので、最初に固有名詞を用いてその後に代名詞を用いるが（例：「**Tom** is a student. **He** is very smart.」）、代名詞が先行する従属節の中に入る場合には、代名詞が先に出ても構わない（例「Because **he** helps me, I like **Tom**.」も「Because **Tom** helps me, I like him.」も共に可）[2]。

---

[2]代名詞は、その参照する固有名詞を、先行（precede）かつ統御（command、≒従属節に対する主節のように、上のレベルの節にある）してはならない（どちらか一方のみなら可）（cf. Ron Langacker, “On Pronominalization and the Chain of Command”）：

○I talked to **Marilyn** before **her** operation.（代名詞は固有名詞を統御も先行もしていない）
○Before **her** operation I talked to **Marilyn**.（代名詞は固有名詞を先行するが統御していない）
○Before **Marilyn's** operation I talked to **her**.（代名詞は固有名詞を統御するが先行していない）
×I talked to **her** before **Marilyn's** operation.（代名詞は固有名詞を統御かつ先行している）

5 because以外の理由の従属接続詞

❖ as（アズ）〈主語〉〈動詞〉：〈主語〉が〈動詞〉するので。	
As everyone already knows each other, there's no need for introductions.	みんなお互いを知っていたので、紹介の必要はなかった。
As it looks like rain, I think the picnic should be canceled.	雨が降りそうなので、ピクニックは中止すべきだと思う。

理由のasは主に文前半で使用する。becauseが直接の理由を明示するのに対し、asは**軽く付帯的な理由**を述べる場合に用いる。また、asは他にも時や様態、比例などを表す接続詞にもなるので、いずれの意味になるかは文脈から判断する必要がある。これに関しては接続詞asプリント参照。

❖ since（シンス）〈主語〉〈動詞〉：〈主語〉が〈動詞〉する以上は。	
Since everything can be done from home with computers and telephones, there's no need to dress up for work any more.	コンピュータと電話で全てを家からできる以上は、もはや仕事のために着飾る必要はない。
They're rather expensive, **since** they're quite hard to find.	それらは幾分高価だ、見つけるのがとても困難なので。

理由のsinceは主に文前半で使用する。sinceを後半で用いる場合は、その前にカンマを打つ。sinceはbecauseのような直接的因果関係を示さないので、becauseと書き換えができない場合もあるので注意。

Why was Tom absent? ○ —**Because** he was busy. × —**As** he was busy. × —**Since** he was busy.	なぜトムは欠席なのですか？ ～忙しいからです。
○ Are you feeling unwell **because** you ate too much? × Are you feeling unwell **as** you ate too much? × Are you feeling unwell **since** you ate too much?	食べすぎた**から**、気分が悪いのですか？（≒食べ過ぎが不快の原因ですか？）

why疑問文など理由を尋ねる疑問文に対する答えにおいてはbecause節を単独で用いるが、この際は**asやsinceなどの代替接続詞は用いることはできない**。

また、Yes/No疑問文内においてもbecauseを用い、asやsinceなどは用いない。

6 時の従属接続詞

❖ when（ウェン）〈主語〉〈動詞〉：〈主語〉が〈動詞〉する時に（一時的な行為）。	
I will tell Tom **when** he comes home.	彼が帰ってきたら、トムに教えるつもりだ。
I was watching TV when they arrived.	彼らが到着した時、私はテレビを見ていた。
When they arrived, I was watching TV.	

❖ while（ワイル）〈主語〉〈動詞〉：〈主語〉が〈動詞〉する間に（継続する行為/状態）。	
I'll look after your baby **while** you're out.	外出中、赤ちゃんを見てあげよう。
Don't phone me **while** I'm at the office.	事務所にいる間は電話をかけてよこさないでください。
I visited Kyoto **while** Ⓢ I Ⓥ stayed in Japan. ☞接続詞while＋動詞stay（滞在する）。	私が日本に滞在した間に、私は京都を訪れた。
I visited Kyoto **during** my stay in Japan. ☞前置詞during＋名詞stay（滞在）。	私の日本滞在中に、私は京都を訪れた。

一時的な行為をしている時にはwhenを用い（例：「When the phone rang, I was making lunch.」）、継続する行為をしている時にはwhileを用いる（例：「While I was making lunch, the phone rang.」）。

なお、時（whenなど）の副詞節（≒主節の本動詞を修飾する節）内では、**未来の出来事であっても未来形は用いず、現在形または現在完了形を用いる**。

whileは接続詞であるためその後ろには主語と動詞を備えた文が続くのに対し、duringは前置詞であるためその背後には名詞句が続く。

◇ when（ウェン）〈主語〉〈動詞〉：するとその時、〈主語〉が〈動詞〉した（例外的な用法）。	
I was standing there lost in thought **when** I was called from behind.	考え込んでそこに立っていたら、後ろから声をかけられた。
I had just fallen asleep **when** someone knocked at the door.	眠ったと思ったとたんに、だれかがドアをノックした。
Wait till eight, **when** he will be back. ☞非制限用法。	8時までお待ちなさい、その時分には彼も帰ってきます。

接続詞whenは、その前に来る進行形または過去完了形の文を受けて、「するとその時…した」という意味で、なかば等位接続詞的に用いられることもある。

❖ after 〈主語〉〈動詞〉：〈主語〉が〈動詞〉する後で。	
❖ before 〈主語〉〈動詞〉：〈主語〉が〈動詞〉する前に。	
Tom arrived **after** Mike left.	マイクが去った後に、トムが到着した。
Tom arrived **before** Mike left.	マイクが去る前に、トムが到着した。

afterとbeforeは、共に前置詞としての用法もある（例：「I studied English **after** lunch.」）。

❖ till（ティル）〈主語〉〈動詞〉：〈主語〉が〈動詞〉するまで（ずっと）。	
❖ until（アンティル）〈主語〉〈動詞〉：〃	
◇ by the time 〈主語〉〈動詞〉：〈主語〉が〈動詞〉する時までには（期限）。☞前置詞＋名詞＋関係副詞節。	
Can you stay here **till** I get back?	私が戻ってくるまでここにいてくれる？
We must wait **until** he comes.	彼が来るまで待たなければならない。
By the time we reached home, it was quite dark.	家に着いた時にはすっかり暗くなっていた。

tillとuntilも、接続詞としてだけでなく、前置詞としての用法もある（例：「That matter can wait **until** tomorrow」）。

期限を意味する前置詞byとの違いに注意。

7 条件の従属接続詞

❖ if（イフ）〈主語〉〈動詞〉：もし〈主語〉が〈動詞〉したらば。	
❖ unless（アンレス）〈主語〉〈動詞〉：もし〈主語〉が〈動詞〉しない限りは、〈動詞〉しなければ。	
If you study hard, you will pass the exam.	もし懸命に勉強すれば、君はその試験に合格するだろう。
You will pass the exam if you study hard.	
If you study hard, you can pass the exam.	もし懸命に勉強すれば、君はその試験に合格することができる。
If it is fine tomorrow, we will go on a picnic.	もし明日晴れたら、ピクニックに行こう。
We will go on a picnic **if** it is fine tomorrow,	
You will miss the bus **unless** you walk more quickly.	もっと早く歩かなければバスに乗り遅れるよ。

ある条件を満たすと生じる出来事の予測（「もし～したら、…になるだろう」）を表すには、従属接続詞ifを用いる。

この種の条件の副詞節を持つ文の主節（後半の「…になるだろう」に相当する部分）では、助動詞willを用いるか（例：「If you study hard, you **will** pass the exam.」）、あるいは「～できる」という可能性の意味合いを加えたい場合には助動詞canを用いる（例：「If you study hard, you **can** pass the exam.」）。

この種の条件の副詞節内（前半の「もし～したら」に相当する部分）では、それが**未来の出来事であっても動詞には未来表現は用いず、現在形または現在完了形を用いる**。例えば上の例文「**If** it is fine tomorrow, we will go on a picnic.」において、if節内の内容は明日（tomorrow）という未来の出来事に関するものであるが、動詞にはwill beではなく現在形のisを用いている。

If you heat ice, it melts. ☞if節内の動詞は現在形、帰結節内も現在形。	氷は熱すると、溶(と)ける（そういう性質の物質である）。
When you heat ice, it melts. ☞if節内の動詞は現在形、帰結節内も現在形。	
Phosphorus burns **if** you expose it to air. ☞if節内の動詞は現在形、帰結節内も現在形。	リンは大気に晒(さら)されると燃焼する。
Phosphorus burns **when** you expose it to air. ☞whenで書換可。	
If you add two and five, you get seven.	２と５を足すと７になる。

if節などの条件の従属節を含む文の主節において、自然法則などの**常に正しい一般的事実**を述べる場合には、動詞には**現在形**を用いる（助動詞willやcanは用いない）。

If you study hard, you will pass the exam.	もし君が懸命に勉強すれば、君はその試験に受かるだろう。
Study hard, **and** you will pass the exam.	懸命(けんめい)に勉強しろ、**そうすれば**君はその試験に受かるだろう。

If you don't study hard, you will fail the exam.	もし君が懸命に勉強しなければ、君はその試験に落ちるだろう。
Study hard, **or** you will fail the exam.	懸命に勉強しろ、**さもなければ**君はその試験に落ちるだろう。
Study hard, **or** you won't pass the exam.	懸命に勉強しろ、さもなければ君はその試験に受からないだろう。

命令文＋and/orの文は、if節を用いて書き換えることができる。詳細は別プリント参照。

8 譲歩の従属接続詞

❖ though（ゾウ）〈主語〉〈動詞〉：〈主語〉が〈動詞〉したとしても。	
❖ although（オルゾウ）〈主語〉〈動詞〉：〃	
Though it was very cold, Tom went out without a coat.	とても寒かった<u>けれども</u>、トムはコート無しで外出した。
It was very cold, but Tom went out without a coat.	とても寒かった、<u>しかし</u>トムはコート無しで外出した。
I like him, although I don't trust him. ☞非制限用法。	私は彼が好きだ、信用はしないが。

逆接の等位接続詞butを用いた文は、譲歩（じょうほ）の従属接続詞thoughで書き換えることができる。

The work was hard. I enjoyed it, though.	仕事はきつかった。楽しかったがね。
I will come tonight; I cannot stay long, though.	今夜お伺（うかが）いします。長居はできませんけれど。
For Ryan, though, it was a busy year.	ライアンにとっては、しかしながら、その年は忙（いそが）しい一年だった。

thoughには、文尾・文中に置いて「でも、もっとも、やっぱり」の意の副詞として用いる用法もある。

through（スルー）（前置詞、～を通して）、tough（タフ）（形容詞、頑丈な）、thought（ソート）（考えた、動詞）、thorough（ソーロウ）（形容詞、徹底した）他と綴（つづ）りを混同しないように注意。